

多し、故をもて現今我國に存するもの、甚乏しきに至れり、横
畫の東海道五十三次、および魚盡しの繪畫等、最行はる、これ
廣重か腕力、超凡なるを以てにあらずや。

正誤 前號廣重傳中、天保年間の條、八朔御馬進獻云々は、
誤なり、御馬進獻は、年々八朔に、幕府より馬を朝廷に進獻
する古例なり、天保十三年北村季文氏が作りて、幕府に奉り
し、幕府年中行事歌合を閲するに、廿五番、左、馬御進獻、
久堅の雲のうへまで行ものは、秋の月毛のこまにぞありける、
注に、馬御進獻は、馬屋の中の駒を撰ばれ、八月朔日に、在
京の大番頭を御使にて、内裏へまゐらせらるゝ事なり、これ
らは、古の駒牽のなごりにやさふらふらんとあり、駒牽の事
は、公事根源などにも見えて、其の例甚古し、一説に、此の
時廣重は、幕府の内命を奉じ、京都に到り、この駒牽の例式
を書きたるなり、或人この駒牽の畫卷物を藏せりと。

(廣重傳をはり)

春鳥會々友

石川縣小松八日市町五

湯淺竹次郎

日本水彩畫會新會友

札幌區北四條西十一丁目

小島 義男

佐賀市點合町

水町武次郎

報 告

日本水彩畫會橫濱支部展覽會報告

拜啓書面を以て展覽會の大略報告申上候

十月十五日 雨天

午后より會場の仕度に取りかゝる、萬事手違ひにて非常に遅れ
學校よりは午后九時以後の夜業を禁ぜらるるために幕を張りし
みにて終り。

幹事の心痛一方ならず、夜田中宿直。

十月十六日晴 後大雨

午前五時より額かける、九時に至るも未だ第二室は半分程かゝ
りしのみ、幹事連大いに苛立つ、觀者續々と來る、壹室のみ觀
覽を許す。

十時萬事調ふ。休憩室出來、眞中に菊花を、第一室第二室へ青
木を飾る、體裁大いに振ふ、十時半、小島氏山崎氏磯氏來る。

十一時前後、二日中最も入場者多數の時にて、室内暗くなる程
に至る、幹事連とび上りゝ喜ぶ。

二時半より雨となる休憩室大いに賑ふ。

六時閉會、入場者千人以上、賣約ずみ二點。

十月十七日 雨天

朝七時前より觀者來る、雨なれ共相變らず大入なり、午后、會
員小林氏會場内寫眞取る。

六時閉會、直様取りかたづける、九時全部終り。